

市政に関する 一般質問の概要

3月12日、13日に議員21名が市の考えをただしました。主な質問、答弁の要旨を紹介します。

厚木駅前商店街の活性化 市の早急な対応を！



新政法 山口良樹

問：厚木駅は、海老名の西の玄関口であり、それにふさわしい駅前整備が必要だと思います。厚木駅前には、40年の歴史ある商店会、「駅前栄光会」がありますが、10年前は45店舗ありましたが、現在は、31店舗まで激減していると同つています。確かに最近では、空き店舗が目立つようになり、駅前の一等地でも、空き店舗が埋まらない状態が続いています。その最大の要因に、厚木駅周辺整備の立ち遅れが指摘されています。駅周辺の商店街を再活性化させるために行政として、どのような施策を考えているのか伺います。

答（市長）：海老名駅の周辺整備が一定の成果が見えてきた現状では、次に取ることができるべき駅は厚木駅と考えています。18年度から、厚木駅周辺のまちづくり調査に取り組みできました。現在は、地域住民の意見を取りまとめ、行政としての整備方針を取りまとめる最終段階に入っています。

成果見えぬ 消防団員の確保



新政法 鈴木惣太

問：広報えびな1月15日号に、「消防団で広がる人の輪」という記事が掲載されています。消防団員の確保に対する行政の広報活動は評価しますが、その成果が必要です。先日、数人の消防団員に聞きまして、広報の効果もむなしく、入団希望者はいないとのことでした。若者の生活スタイルの多様化、社会構造の変化によって、消防団員の確保が厳しい状況ですが、市として、団員の確保対策

献立の作成と食材の購入を自治体が行い、それを衛生管理の行き届いた民間の調理施設で調理する「弁当給食」を実施しているところもあります。本市教育委員会でも、すでに研究を始めています。

答（教育長）：一人親家庭の増加や、中学生の3割が、完全給食を望んでいる。アンケート結果を踏まえ、改めて、弁当給食による中学校完全給食の採用も視野に入れ研究しています。実施にあたっては、申込み希望者数の増減による不安定要素、調理を行える業者の選定、申込みシステムの研究など、課題も多く、早急な実施は、困難な状況です。

中学校弁当給食 早期導入を！



市政 外村昭

問：市長は、中学校の望ましい昼食のあり方の検討については、現在導入している、注文弁当方式以外にも、選択肢の拡大を検討しているとのことですが、例えば、他市では「弁当給食」が導入されています。完全給食が実施できないの

であれば、本市でも、「弁当給食」導入でも良いのではないかと思います。この「弁当給食」を導入した場合、どのような流れになるのか、早期導入が望まれる中、時期はいつごろになるのか伺います。

答（市長）：他市では、



▲地域の安全安心を守る消防団（第1分団）

後期高齢者医療制度 負担軽減措置を！



共産党 佐々木弘

問：後期高齢者医療制度の導入により、無収入や低所得者の方は、大変な経済的負担を強いられます。東京都広域連合では独自の保険料の軽減措置が行われることとなっており、本市でも神奈川県広域連合に軽減策の実施を求めるべきです。

また、75歳以上の健康診査について、早期発見、早期治療が健康と生活の質を保ち向上させることから、その必要性について伺います。

新化などで取り組んでいる。消防団は地域コミュニティの振興にも大きな役割を果たしており、20年度から、新たに団員を支援する「消防協力員制度」を取り入れていきます。

答（保健福祉部次長）：この制度は、公費5割・医療保険者からの支援金4割・保険料1割で運営するもので、すでに公費には市負担分が含まれています。軽減措置を実施した場合は、各市町村がさらに負担することになるので、広域連合では実施しないとしています。また、75歳以上の方は国保加入者と同様、特定健康検診を受けていただくこととしています。

大規模災害！ 市民の不安を拭うには



新政法 倉橋正美

問：大規模災害に襲われた際は、指定の避難場所だけではとてもまかないきれず、小中学校施設なども被災された市民の重要な拠点となります。被災直後の市民に対しては避難所の広さ以上に、不安を拭うことが大切です。冬であれば暖かさを、夏であれば涼しさを求め、温かい食事を願うことは自然なことです。20年度予算で学校施設のエアコン設置



▲大地震では家屋の倒壊も…

工事が予定されていますが、小中学校を含む避難所における熱源について、市はど

のように考え、準備されているのか伺います。

答（市長）：大規模地震が発生した際、本市でも1万4000人の避難者が予想され、小中学校でも、体育館だけでは収容しきれないと思われます。加えて、広範囲の災害の場合は、仮設住宅建設用の資機材も供給困難となり、教室を避難所として使用せざるを得な

くなりません。従って、小中学校のエアコン・トイレ改修などを推進しています。

答（消防長）：冬場の体育館には、灯油を熱源とした大型温風暖房機を2機ずつ設置しています。エアコンの熱源は電気、都市ガス、プロパン等がありますが、過去の災害の例から、復旧速度では電気、プロパンが優位と思われます。

防災行政無線で 帰宅の合図活用を！



新政法 氏家康太

問：防災行政無線から、午後5時にチャイムメロディーが流れ、多くの子ども達の帰宅への合図となっています。

ところが、午後5時という、冬はすでに真っ暗です。その一方、このチャイムを時報がわりに利用している市民も多くおり、季節によって時間変更されているという方もいるのが現状です。そこで、チャイムの時間変更ではなく、冬の時期だけでも、チャイムとは別に子ども達へ帰宅を促す放送をすることができないでしょうか。

答（教育長）：防災チャイムの季節による時間変更について、各学校のPTA会長が集まる会議で、以前協議しましたが、夕方5時のチャイムが定着していること、子ども

達への帰宅は、各家庭の決まりとして暗くなる前に帰宅できるように指導することが基本のことから、現状のままが良いということでした。しかし、年少のお子様をお持ちの保護者からは、季節による時間変更の要望があることも事実です。そこで、子ども達の安全確保の観点から、消防本部と協議し、冬期において、防災行政無線で、音楽やメッセージを流す方法を検討し、なるべく早く実施できると考えています。



▲防災行政無線を制御する通信指令室